

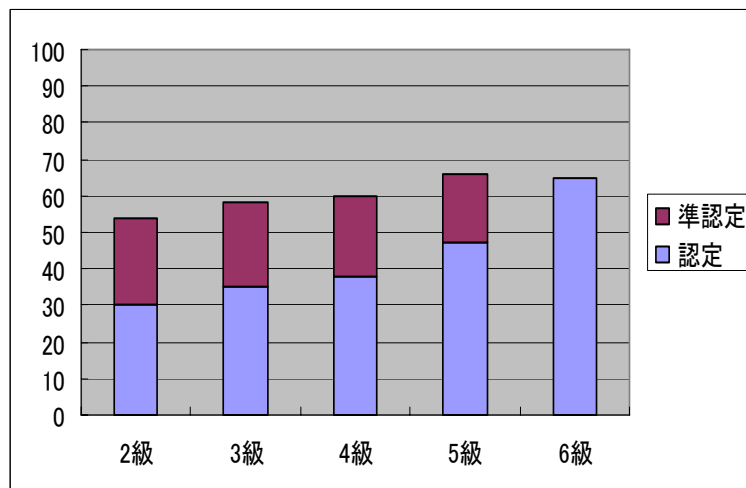
◎ 3人に1人が合格＝第1回検定の合否判定結果まとまる

6月に実施された第1回日本語検定（略称「語検」）の合否判定結果がまとまりました。そこで、その全体の概要を事務局に伺いました。

（質問者：時事通信社編集委員 牧俊朗）

Q：6月に行われた第1回語検の受検者の合否判定結果が公表されましたが、全体的な印象はいかがでしょう。どうしても気になるのが受検生の合格率ですが、想定していたものと比べていかがでしょう。

A：受検生全体の合格率は、32.7%となりました。これを高いと見るか、低いと見るかは、色々な要素が絡んで判断が難しいところですが、やはり、関心の高いかたがたが受検されるわけで、当初予測していた比率よりは高かったと考えています。



Q：級別にはいかがでしょう。

A：これも表を見ていただくと分かるのですが、2級（社会人中級・大学卒業程度）と3級（社会人初級・高校卒業程度）が30%前後、4級（中学校卒業程度）が40%弱、5級（小学校卒業程度）も50%に少し足りない、6級（小学校4～5年程度）が一番高くて約66%となっています。

4～6級については、漢字を代表的な例として、学校での学習内容に配慮していますので、そこに関心の高い児童・生徒のみなさんが受検されるとなると、これくらいの数字になったことは妥当ではないかと考えています。

Q：団体受検と一般受検の合格率に多少差があったと伺っていますが。

A：多少の差は認められると考えています。例えば、2級の合格率が想定していた数字よりも高かったのですが、もし第1回目に1級の検定が行われていたら受検しようと考えていたかたがたが相対的に多くいらっしやったと推測されます。

Q：問題は、「敬語」や「文法」、「語彙」など6つの領域で出題されていますが、受検生の得手、不得手はいかがでしょうか。

A：活字離れといわれて久しいのですが、そうしたことが影響してかどうかはともかく、語彙の問題があるのではないかと感じられます。引き出しの中にしまわれている言葉の多寡は、他人の言うことを正しく理解できるか、自らの考えを適切に伝えられるかどうかを左右します。

Q：第2回の語検は10月に予定されていますが、第1回目と比べて変更点はありますか。

A：先ほど申しましたように、第2回では1級の検定が実施されます。2級に合格されたかたのチャレンジをお待ちしています。

(了)